No. 118 August 2022

AAINews

人と農と環境をつなぐ技術を考える

国際耕種株式会社
〒194-0013
東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403
tel　042-725-6250
fax　042-785-4332
mail aai@koushu.co.jp
URL www.koushu.co.jp

アチョリの名前（2）

海外で仕事をしていると、現地の名前をもらうことがある。「日本人の名前が呼びにくい」という事情もあるだろうが、それでも現地に受け入れてもらえたような気がして、うれしいものである。前号で詳しく紹介した通り、筆者が業務しているウガンダ北部アチョリ地域で話されているアチョリ語の名前には、それぞれに意味があるということで、自分のアチョリ名をもらうときはとても楽しみであった。

周りの日本の女性陣は、ラケ Laker「姫」、ラキサ Lakisa「優しい」、ラマロ Lamaro「愛」、アベェ Aber「美しい」など、皆いい名前をもらっていた。そのまま日本の名前にも当てはめられそうである。アティム Atim「遠いところで生まれた女の子」という名前も、日本という遠い国から来た女性に名付けるには良い名前だと思う。他方、男性陣への名付けはどうも適当で、発音が似ている理由で、オオノさんはオノノ Onono「何も持っていない男」、ユウキさんはオユギ Oyugi「ゴミ」など、本当にそれは名前なのかと疑ってしまうほどひどい意味の名前を授かっていた。もちろん、本人たちもその名前を嫌がり、後日それぞれ別の良い名前をもらうことができた。ある青年はオヨーOyoo「道端で生まれた子」と名付けられた。オヨーOyoo には少し発音は異なるが、もう一つ「ネズミ」という意味があるらしく、いつもあわただしく走っている彼を見て、農家さんがその名前をくれたらしい。「せっかちな自分にはピッタリです」と、彼は存外それを気に入ったらしく、オヨーOyoo の名前を受け入れた。

さて、かく言う筆者のアチョリ名はムワカ Mwaka という。「年」という意味で、年末年始に生まれた子に付ける名前らしい。しかし、どちらかというともう一つの「遅産の子」という意味で付けられることが多いようで、現地で「私のアチョリ名はムワカ Mwaka です」と名乗ると、「お前はその名前の意味を分かっているか？」「ずいぶんとママが好きだったんだな！」と、まずは笑われる。しかし年末年始の生まれでも、遅産でもない筆者がこの名前を使っているのには、ちゃんと理由がある。

アチョリで仕事をして 1 年が経った頃、筆者がひとりで圃場を見回っているとき、農家グループのメンバーの一人に出会って案内をしてくれた。その方は妊婦さんで、その後、生まれた自分の子供に「サワダ」と私の名前を付けてくれたのである。自分の名前を付けてくれたと言うことが、なんだか自分を認めてもらえたような気がして、嬉しかった。その子の名前がムワカ・サワダ Mwaka Sawada であった。そして、その子のアチョリ名を、今度は筆者がもらうことにしたのである。この話をすると誰も笑うことなく、親しみを込めて筆者のことをムワカ Mwaka と呼んでくれる。

今では「サワダ」の名を持つ子供がアチョリ地域に 4 人になった。そのままムワカ・サワダ Mwaka Sawada と名付けられた子供もいる。ときおり筆者が日本から子供の古着を持っていくとずいぶんと喜んでもらえる。自分の息子が来ていた服を、同じ名前を持つアチョリの子が来ている姿はなかなかうれしい光景である。

筆者が日本から持参した
甚平を着るサワダ君

（2022 年 7 月 澤田）